

インターバンクの声（2017年1月26日）

朝起きてテレビのスイッチを入れた後、各テレビ局のニュース番組がニューヨーク市場の様子を伝える際には大抵ニューヨーク株式市場動向になることが多い。今朝もニューヨーク・ダウが史上初めて2万ドルの大台を突破したことを伝え、トランプ米大統領が掲げる経済対策への期待感から株価の上昇が続いていると解説していた。しかし、為替相場がどうなっているのかなかなか伝えてくれない。夜中の2時前にニューヨークの友人と電話で話した時のドル円が113円台後半だったので、ダウが2万ドルを突破していれば、ドル円も114円に乗っているのではと思ったが、何とドル円は下落しているではないか。

米10年国債利回りも2.5%台まで上昇していたので、難なく114円台に戻すものと考えていたが、東京市場で越えきれなかった114円がニューヨーク市場でも何度も壁になっていたのも響いたようだ。

為替市場はトランプ新政権の保護主義政策とドル高懸念が強まっており、株式市場の反応とは別物になり始めている。113円では何とかドル売りも止まっているが、下値がやや危うくなってきたようだ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。